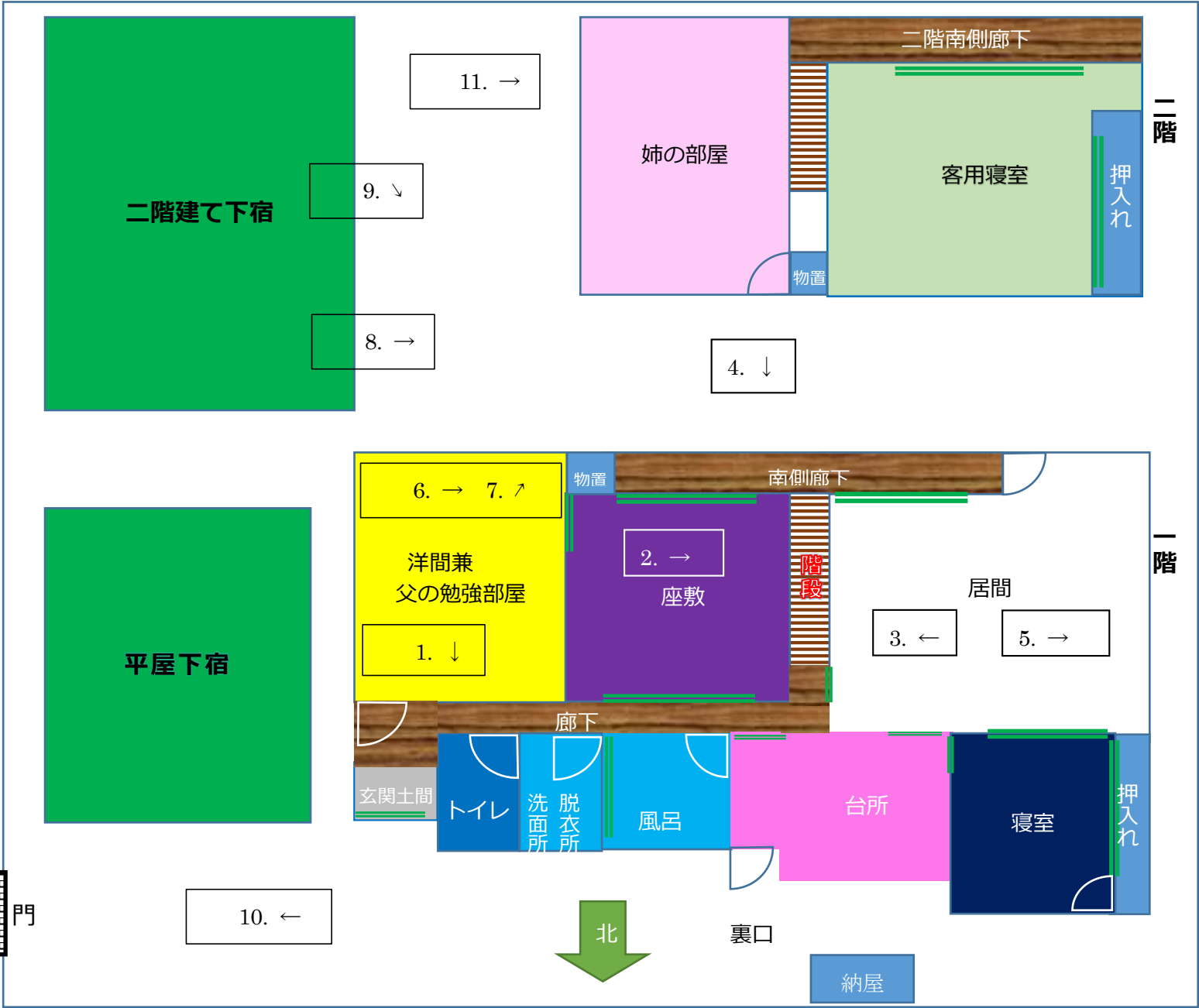


名古屋自宅見取り図

↑至八事

山手通り

至本山
↓



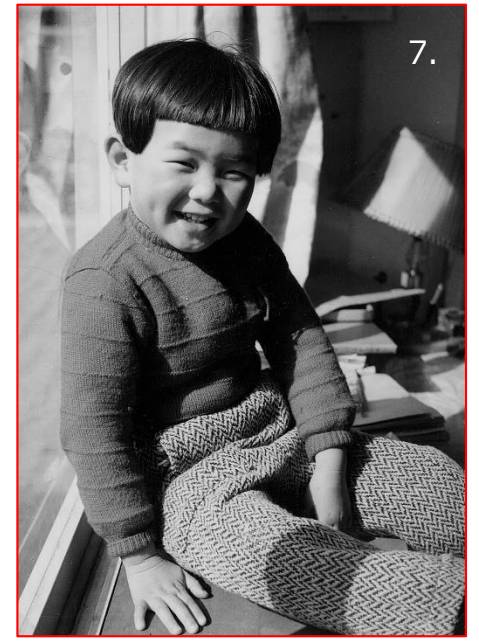
—記号の説明—

はドア、

は引き戸、または襖

☆ 四角内番号は写真の番号。矢印は撮影方向を示す。







写真の説明

1. 昭和 30 年正月、家族で洋間にて。
2. 同上。家族で座敷にて。
3. 昭和 30 年夏。家族で居間にて。
4. 昭和 30 年 12 月クリスマス。祖母と共に南側廊下にて。
5. 同上。居間にて。後列左より 石原一郎氏・父・須賀太郎先生・石原國利氏・原田のおばさん、
中列左より 下宿族、熊崎氏・伊藤氏、江口氏、前列左より、私・たかちゃん・姉
6. 昭和 32 年冬。父の勉強机にて。
7. 同上。洋間の出窓にて。山岳写真家の山本先生に撮っていただいた写真。山本先生は、岩稜会員になられた。
上高地ビジターセンターの展示室には、先生の写真が何枚か飾ってある。また、横尾山荘の食堂にも大きな写真が掲げ
られている。
8. 同上。南側の庭にて。左より 山本先生・父・姉・母、前に私。
9. 同上。南側の庭より家を写す。洋間に父と私がいる。
10. 昭和 32 年夏。門をバックに姉。門の後ろの坂を上がると、日赤病院の結核病棟があった。
家の門と坂の間に、山手通りがある。姉のすぐ後ろに見えている階段は、道路が整備される度に高くなった。最後には
4 段も足されて、家は地の底のようになり、光化学スモックが溜まった。
道路に接する下宿は、山手通りから見ると、二階部分が一階の高さになり、一階は地下に見えた。片側 2 車線の道路に
歩道が整備され、下宿の一階からは道行く人の足が頭の上に見えた。「女性のスカートの中まで丸見えで、勉強が手につ
かない」とこぼしていた下宿族の言葉を思い出す。現在とはあまりに変わって、同じ場所だとは考えられない。
11. 昭和 32 年春。南側の庭の西端に、父が作ってくれたブランコがあった。

